

芳賀町 女性模擬議会開催



1月28日、第5回芳賀町女性模擬議会（荷見イツ子議長）が役場議場で行われました。この模擬議会は、男女共同参画社会の推進を目的として行われています。

当日の進行は、正式な議会の規則に従って行われ、各女性団体からの推薦で選ばれた11人の議員が町執行部に対して質問を行いました。

今回は4人の模擬議員の質問と町執行部の答弁を、要約してお知らせします。なお、詳しい内容は、町ホームページに掲載しています。

各議員の質問事項

- 小筆京子議員
 - 芳賀工業団地の未利用地について
 - 心の教育について
- 大島知子議員
 - 学童保育について
- 黒崎幸子議員
 - 学校給食の地産地消について
 - 子ども医療費の現物支給について
- 石川伸江議員
 - 佐藤幸枝議員
 - 保育園の民営化について
 - 大谷浩子議員
 - 学校給食の民間委託について
 - 北村康子議員
 - 婦人科検診について
 - 高松イク議員
 - 町民祭について
- 小林功子議員
 - 農作物加工所建設への援助について
- 小林峰子議員
 - 学校給食の取り組みについて
 - 地域ブランドの進捗状況について
- 大萱京子議員
 - ひばりタクシー及び公共交通機関の利用改善について

学童保育について

大島知子議員



《質問》
芳賀町には、現在、3力所の学童保育がありますが、この保育事業の運営方針について伺います。

《答弁》
町では、子どもに保育すべき内容、子どもの把握と記録・保育計画などを定めた保育方針に基づいて運営をしています。また、各学童保育では、この方針に基づき、それぞれが創意工夫し、特色ある運営に努めています。

《質問》
学校から開放された子どもたちが、気持ちよく伸び伸びと生活するための取り組みや援助などが考えられないか伺います。

《答弁》
学校から開放された子どもたちは、自由に行動したい欲求が強いのは当然ですが、集団生活にはルールや規則があ

ります。中には不満を持つ子どももいて、指導に苦慮している現状も少なからずあります。

指導員は、子どもたちがお互いの存在や関わりを通して成長できるように働きかけるとともに、子どもの自主性を大切にし、子どもが充実感の持てるような取り組みを援助しています。具体的には、自主的に計画した遊びや活動を支援したり、自由遊びの時間を設けるなどの工夫をしています。

《質問》
学童保育の対象が1年生から6年生までとなりまして、この学年差についてどのような対応が取られているのか伺います。

《答弁》
今年度から1年生から6年生までと一緒に過ごすことになり、学年差が広がり人数も増えました。しかし、大勢の子どもたちが一緒に過ごしていることで、少子家庭ではできない経験ができた、上下関係を学んだり、上級生のリーダーシップが養われるなどの効果も出ています。

これからは、このような特

性を生かした活動がさらに活発化、多様化するよう検討、研究していく必要があると考えています。



学校給食の地産地消について

黒崎幸子議員



《質問》
町では学校給食の食材の「安全・安心」対策として、どのような取り組みをしているのか伺います。

《答弁》
現在、小・中学校で使用している特別栽培米は、生産者

に栽培履歴などの証明書を提出していただき、安全性と責任の所在を確認しています。

野菜や肉などは、なるべく地元産の新鮮で安全・安心な食材を循環システム研究会・町物資納入組合や学校給食会から購入しています。今後は、野菜や肉・豆腐などについても納入契約書を交わし、栽培履歴や保健所の検査結果の提出を義務付けるなどして、安全の確保をしていきたいと考えています。

《質問》
給食の食材の地産率を各保育園・小学校・中学校別に伺います。

《答弁》
米は、100%町内産の特別栽培米を各保育園・小学校・中学校で使用しています。

野菜の地産率は重量ベースで、平成19年度は44.8%でした。各学校の詳細は、平成18年度の数値で、小・中学校全体では、平均53.3%。芳賀中では49.4%、芳賀東小が53.4%、芳賀北小が57.0%、芳賀南小が57.7%でした。なお、保育園は納入数量が少ないため、データがありませんが、町内産の納入率は小・中学校より低くなっています。